

地域のお力を学校へ 子どもと創るふるさと土山

土山小学校長 立岡 秀寿

鮎河小、山内小とともに市内で第一号の統合校となり、これまで以上にふるさと土山の魅力を子どもたちに五感を使って学ばせ、より魅力ある学校づくりをめざしてきました。今年度市内第一号のコミュニティ・スクールの一校として、15人の学校運営協議会のメンバーを中心に熟議を重ね、地域指導者やサポーターの皆さんと一緒に活動してきました。地域に支えられた多くの活動を整理し、新たな視点で創造しながら、

- A) 地域のお力を学校へ
- B) 子どもたちの力を地域へ
- C) 様々な民間企業さんとコラボして

と、3つの方向性をもって活動を進めてきました。

その結果、例えば特産物のお茶の学習では、これまで以上に、学びに深まりと広がりが見られました。道の駅、フレンドマート、土山サービスエリア等の地元企業様とのコラボにより、新たな活動のフィールドが広がりました。

今後も、子どもたちが、地域の皆さんと土山の魅力を学び、夢を描き、街づくり・地域作りに少しでも参画できる活動を展開していきたいと思ひます。

「CS土山だより」「土っ子」、また学校ホームページでも、活動をお伝えしながら、一歩一歩進めていきます。皆様のご理解と一層のお力添えをよろしくお願いいたします。



少人数に分かれての熱い熟議～学校運営協議会～

自分のできる範囲で子どもたちをサポート

市内では初めてとなるCS活動が2つの小学校で始まって1年、この取り組みは今後多くの学校に広がっていく予定です。

今回お話を聞きした方はみんな「そんなたいしたことはしていませんよ。空いた時間で自分ができることをほんの少しやっているだけなんです。」と語っていました。

学校ができること、保護者ができ

ることにもそれぞれ限界があると思ひます。一人でも多くの方が子どもたちに関わっていただくことで地域の方に愛され、地域のことを愛せる子どもたちが育ってくれるものだと思います。

学校、地域、家庭と一緒に子どもたちの学びを支え見守っていきける、甲賀市にしかない、甲賀市でしかない「そんなオール甲賀で子どもたちをサポートできるこれからの『地域とともにある学校』をみんな考えていきたいですね。



世界に一つしかないお茶の商品ができたよ!

戦時中はこんな服を着ていたんだね

お茶の葉の手もみって難しいね



つげろう
ちいぎとともに
やつてみよう
なれまとともに



地域の方々を先生として迎える「ゲストティーチャー」の取り組み、学校近くの永雲寺にある本格的なお茶室を活用し、子どもたちにお茶会を体験してもらおうと活動されている阪上きよ子さんにお話を伺いました。

実体験での学びを子どもたちに

「お茶は千利休の時代から、茶室に入る前は刀を外し、心を静めてみんな平等でお茶を飲みます。このことは、現代の共生社会に通じるのではないかと思います。その心を子どもたちにも伝えたいと思ひ、少しばかりですが協力をさせていただいています。

子どもたちはお茶室での体験や座禅を通じて自然と姿勢を正し、しっかりとお茶をいただくとする姿を見るのが喜びです。

今の子どもたちは小さい頃からインターネットやスマホ等に慣れ、いつでも、どこでも調べられる時代ですが、学校での知識だけではなく、実際に行って、触れて、感じる体験を通じた学びの中で育ってくれることを願っています。」



お茶室で指導する阪上さん(教職員による体験時の写真)

子どもたちには学校やPTAだけが関わるのではなく、地域の方に二人でも多く学校と関わっていただければと願っています。

子どもたちにはCSを通じて地域を愛し、将来、地元土山のために活躍してくれることを願っています。」



児童にお茶の生産過程について説明する辻さん

土山小学校のCSも取材しました

学校運営協議会会長の渡邊俊博さんにお話を伺いました。

地元企業からも多くの支援

「土山地域の特徴は多くの地元企業様に協力いただけることであり、このことが強みではないかと思ひています。道の駅、土山サービスエリア、大型量販店などの子どもの作品展や、子どもたちが作成したお茶パックの販売など、これまで多くの支援をいただきました。

また、今年度は東海道宿場まつりに合わせ、自治振興会にも協力いただき地元産の木材を使用し、東海道の案内看板を子どもたちが色付けし、制作していただきました。

子どもたちには学校やPTAだけが関わるのではなく、地域の方に二人でも多く学校と関わっていただければと願っています。

子どもたちにはCSを通じて地域を愛し、将来、地元土山のために活躍してくれることを願っています。」



「土山地域の特徴は多くの地元企業様に協力いただけることであり、このことが強みではないかと思ひています。道の駅、土山サービスエリア、大型量販店などの子どもの作品展や、子どもたちが作成したお茶パックの販売など、これまで多くの支援をいただきました。」

校舎前にある学習茶園(土っ子茶園)を通じてお茶の生産等について指導されている辻正樹さんにお話を伺いました。

土山のお茶を知ってもらいたい

「土山のお茶を子どもたちにもっと知ってほしいとの学校からの依頼を受け、私自身、自営でお茶を生産している中で、少しでもお手伝いできればと協力させていただくことにしました。

今の子どもたちはお茶と言えばペットボトルというイメージが強く、急須で飲むという機会もないので、本来のお茶の飲み方などを学んでもらえる良い機会ではないかと思ひています。

また、滋賀県(土山)のお茶は全国的にも有名だということが意外と知られていないと感じています。そのことを子どもたちにも知ってもらい、将来的には土山のお茶をさらに広めてもらえれば良いなと思ひ、今後も母校のためにがんばります。」